

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	自然から何を学ぶべきか…環境教育学的アプローチからの探究		
研究代表者	蒔田 明史	役職	教授
フリガナ	マキタ アキフミ	学位	博士（理学）
学科等	生物環境科学科	Eメール	makita@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)			
主な共同研究者(学外)	東北森林管理局由利森林管理署		

研究の内容

持続可能な社会を作り上げていくためには、私たちをとりまく自然とどのような関係性を作り上げていくかが重要な課題となる。20世紀に発展してきた社会は、科学技術の進歩に依存し、ややもすれば私たちが自然に依拠しながら生存していることを忘れがちになっていたような気がしてならない。石油文明の行き詰まり、震災による壊滅的な打撃、そして、原発事故。現在、私たちはこれからどのような社会を築いていくべきなのか、その大きな岐路にたっていると考えられよう。

こうした状況の下、私たちは私たちをとりまく環境について目を向け、そこから何を学び、自然とどのような関係性を作り上げていくかを考える必要がある。こうした観点から、環境教育学的なアプローチは非常に重要な役割を占めているといえよう。本学生物環境科学科森林科学研究室では、これまで、「森林体験イベントの現状と参加者の意図の解析」「森林レクリエーション施設の現状と課題」等、いかに自然と親しむのかといったテーマや「都市公園の緑の実態と課題」「秋田市保存樹の現状と保全」「角館のシダレザクラ樹勢回復事業の効果測定と保全意識の醸成」といった身近な自然とのふれあいに関するテーマ、さらには、「多数の来訪者が森林に与える影響の解析（鳥海山麓獅子ヶ鼻湿原）」といった人間が自然に与えるインパクト、また、「ボランティアによるブナ植栽活動の実態とその成果」「森吉山麓における自然再生活動」など自然の復元に関するテーマ等数多くの環境教育学的な卒業研究がおこなわれてきた。現在のところ、その多くは単発的で学会発表程度にとどまっているが、今後これらをまとまった形に仕上げたいと考えている。その一例として、今回取り上げるのは下記のテーマである。

「桑ノ木台湿原自然観察プログラムの作成」

鳥海山麓の中腹にある桑ノ木台湿原は、鳥海山をバックにワタスゲやレンゲツツジが咲き乱れる見事な景観美を誇る場所であるが、数年前までは一部のみにのみ知られていた場所で、施設整備も全くなされず、そのため訪問者の踏み込みにより湿原の荒廃が危惧された。そのため、由利森林管理署では検討委員会を立ち上げ、その委員長を務めることとなった。検討会では、研究者、行政のみならず、地元関係者の方々も委員として加わり、湿原の価値と保全の在り方について議論を重ねた。この過程自体がまさに環境教育的な意味合いのある場となり、それぞれの立場からの自然との取り組みについて考えることのできる時間であったと思われる。その後、一般の方に2年間にわたる立ち入り規制の協力を呼び掛け、調査と木道整備がなされた。

本年度全面解放されたが、今後は、来訪者にどのように自然を見てもらうかのプログラムを作ることが重要となる。昨年度自主研究生とともに、案内パンフレットを作成し、今後はそれをもとにガイドの人たちと案内の方法等についての議論を深め、来訪者に桑の木台の自然から何を学んでもらうかを考えていきたい。

環境教育学的見地から、自然から何を学ぶか、そして、それぞれの立場で何をなすべきかについて、取りまとめていきたい。



研究の独自性・アピール点

保全は地域の人たちの理解があってこそ達成できるものであると考えている。まず対象となる自然についての理解を深め、十分に議論を重ねたうえで、実践にうつっていくという道筋をたどった今回の取り組みは、自然の保全に関する一つのモデルケース足りうると考えられる。

期待される成果・波及効果

ややもすれば、自然が通過型観光の単なる一つの要素となってしまう場合が多いと思われるが、本ケースの場合、これまでの議論を踏まえて、自然を観光に生かす際にはどのような留意点が必要かについて、実践的な指針が提供できるのではないかと考えている。

関連する主な業績

蒔田明史(2012)秋田の森林を歩く、無明舎出版、125pp
石川麻衣子・蒔田明史(2009)多数の来訪者がブナ林に与える影響と来訪者の意識 天然記念物「鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落および新山溶岩流末端崖と湧水群」緊急調査報告書：68-85、にかほ市教育委員会
品川朋仁・蒔田明史(2009)秋田県における森林体験イベントの現状と参加者の意図の解析、日本環境教育学会第20回大会、
蒔田明史(2009)、景観の基盤をなす・・・秋田の自然～その山・川・ウミ～そして森 「お宝発見ハンドブック～文化的景観編～」秋田の宝・おらほの宝～地域の文化遺産発見事業：10-13、秋田県教育委員

キーワード

自然の保全、環境教育、観光、保護意識、実践的研究、